

## (基礎研究)

# 発達障害児者支援における「かかわりスキル」に関する多角的分析 —プロセス・レコードの分析を通して—

端 田 篤 人\*

Atsuhito HASHIDA

## 研究実績の概要

近年、教育および福祉、医療現場等、対人援助を行なうヒューマンサービス領域において、発達障害児者に対するかかわり方に難しさを感じる援助専門職が少なくない。本研究は、将来的には福祉・医療・保健・保育・教育いずれの分野においても汎用的に活用できるスキルにかかわる理論を生成し、実践現場に還元することを目指して、福祉・教育・保育現場で実践されている発達障害・知的障害児者への良質なかかわりスキルを質的データとして集積し、分析・体系化した上で事例集（スキルバンク）を作成し、地域の現場実践者に無償配布することを通して、地域の発達障害・知的障害児者支援の質的向上に貢献することを目的としている。

初年次である平成24年度は、上小地域における保育所・幼稚園・福祉施設の職員100名から、発達障害・知的障害児との「効果的なかかわり場面」の事例を2ケースずつ提供してもらい収集を行った。具体的には調査協力者に、対象児童とのかかわりにおける場面を2場面選定してもらい、①「場面の状況」（対象者およびかかわり場面の時間的、空間的状況）、②職員によるかかわり（言語メッセージ・非言語メッセージ双方を含む）、③かかわり後の対象者の変化の有無、

④職員が考える「かかわり」と「対象者の変化の有無」との関連性を自由記述で回答してもらった。そして、収集した自由記述データを子データ（Microsoft Excel形式）に変換するための入力作業を行った。

2年目である平成25年度は、入力したデータをテキストマイニングの手法により分析し（IBM SPSS Text Analytics for Surveys 4を使用）、「うまくいった場面」、「うまくいかなかった場面」それぞれに共通する要因を規定することを目指し、その結果を1次分析報告として紀要論文にて報告する予定である。

また、平成26年度の作業になると思われるが、分析結果の汎用版として実践現場で活用性の高い報告書「スキルバンク」を制作し、調査協力いただいた実践現場に配布、ワークショップ形式で使用例を説明したうえで当該施設機関職員に「スキルバンク」に掲載した「かかわりモデル」の活用を依頼する予定である。その後一定期間において、再度協力施設・機関を訪問し、「スキルバンク」の活用性に関するヒアリングを行い、その結果を2次分析結果として紀要論文等で報告することを目指す。

---

\*社会福祉学部准教授